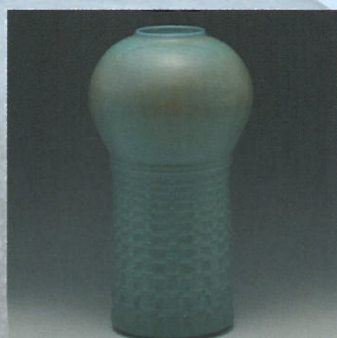


## 中島宏

磁器を焼く窯元に育ち、父と窯跡の調査に携わる。28歳の時に弓野古窯跡に窯を築き独立、青磁に取り組む。「中島青磁」と呼ばれる作品は高い評価を受け、西日本陶芸展総理大臣賞をはじめ数々の賞を受賞。釉薬を重ね色に深みを出す試みや、掻き落としを取り入れ、独創的な青磁を次々と生み出している。2007年、青磁の重要無形文化財保持者に認定された。



### 青磁というやきもの

中国ではじまった青緑色の釉色を基調とする焼きものです。一口に「青磁」と言っても、実際の色合いは淡い青色やオリーブグリーン、さらには淡い黄色など、生み出された地域や時代によって異なります。その青色は、中国皇帝に「雨過天青」雨上がりの澄み切った空、と表現されるなど、古来より理想の青を求めて様々な青磁が作られてきました。

「中島青磁」といわれる作品の数々は、その伝統に倣いつつ「今までにないものを」という作者の想いが形になり、独創的な青磁を生み出しています。

## 十四代酒井田柿右衛門

佐賀県有田で江戸時代より続く陶芸家。1982年、父の死を受け14代目を襲名。翌年アメリカ合衆国にて海外での初出品をはたし、サンフランシスコ市長から名誉市民号を贈られた。作品は国内だけでなく海外で高い評価を集め、2001年に重要無形文化財「色絵磁器」の保持者に認定された。2008年、多くの名作を遺し逝去。



# 青と赤の至宝展

人間国宝 中島宏と  
十四代酒井田柿右衛門の世界

### 赤絵と柿右衛門様式

「赤絵」は赤を中心とし、緑・紫・青などの顔料で上絵付けをした陶磁器です。中国では宋代から見られ、日本では江戸時代に柿右衛門が取り入れました。1670年代には、「柿右衛門様式」という技法が確立されます。柔らかくて温かみのある「濁手」という乳白色の白磁の上に、余白を十分に残した明るく繊細で絵画的な構図を特徴とする色絵磁器です。柿右衛門様式の色絵磁器は、国内はもとより国外でも高く評価され、オランダ東インド会社の手によってヨーロッパ等の国々へ大量に運ばれていきました。



# 青と赤の

# 至宝展

人間国宝 中島宏と十四代酒井田柿右衛門の世界

平成27年  
12月10日(木) ~ 平成28年  
2月9日(火)

会場 ● 崔如琢美術館  
開館時間 ● 午前10時 ~ 午後5時 (入館は午後4時半まで)  
休館日 ● 毎週水曜日 ※イベント等のため臨時休館になる場合がございます。  
入館料 ● 一般1,000円 学生(高校生以上) 700円 中学生以下無料  
住所 ● 静岡県伊東市富戸1-10-10  
アクセス ● 国道135号線「グランバル入り口」交差点から熱海方面に約500m



崔如琢美術館

会期 平成27年12月10日(木) ~ 平成28年2月9日(火)  
会場 崔如琢美術館 入館料 一般 1,000円 学生(高校生以上) 700円 中学生以下無料  
○開館時間 10:00 ~ 17:00 (ご入館は16:30まで) ○休館日 毎週水曜日※イベント等により臨時休館になる場合がございます。  
○〒413-0231 静岡県伊東市富戸1101-10 Tel. 0557-51-7780 ○URL <http://www.yoko.or.jp/>